



内閣府

# 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」

平成29年5月

内閣府沖縄担当部局

## 目次

1. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の策定に当たって P 3
2. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」  
重点化アクション –3つのチャレンジ– P 5
3. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」 P 11
4. 有識者及び一般の方からのご意見 P 35

# 1. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の策定に当たって

# 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の策定に当たって

## はじめに

沖縄は九州と台湾の間、東アジアの中心に東西1,000km、南北400kmの広大な海域に点在する約160の島々で構成され、エメラルドブルーの海と白い砂浜、貴重な動植物及び琉球王国時代の史跡等の世界遺産(9つ)を擁するなど、多くの観光資源に恵まれた地域です。

これらに加えて、近年の沖縄振興策、なかでも観光政策の推進やインフラ整備の進捗等に伴うクルーズ船やLCCの利用の増加等を背景として、入域観光客数とりわけ外国人観光客数は史上最高を記録するなど、現在、沖縄の観光事情はまさに空前の盛り上がりを見せていると言っても過言ではありません。

## 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の策定背景・趣旨

本年3月には沖縄県が「沖縄県観光振興基本計画」の目標フレームを上方修正し、改定したところです。(平成33年度達成目標 観光収入:1兆円→1.1兆円、入域観光客総数:1,000万人→1,200万人)

また、最近の沖縄観光の新たな潮流として、次の要素があげられます。

- 「爆買いから体験型へ」、「BtoBからCtoCへ」といった最近の観光指向や人々の消費活動におけるトレンド
- 沖縄圏域へのクルーズ船寄港数の大幅な増加
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機としたスポーツ・ヘルスケアの成長産業化
- 「やんばる国立公園」の指定等を契機とした本島北部地域や離島の観光資源としての価値の増大

これらを受け、内閣府沖縄担当部局では、沖縄観光関連の取組を更に加速させ、沖縄県の掲げる目標値の達成を後押しするためのアクションプランとして「沖縄観光ステップアップ戦略2017」を策定することとしました。

## 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」の概要

「沖縄観光ステップアップ戦略2017」では、沖縄観光のステップアップを目指し、内閣府等における観光関連の取組の新たな方向を示すため、2017年度に実施する取組(アクション)を具体的にとりまとめました。

観光収入や入域観光客総数の目標達成を強力に後押しするため、有識者へのヒアリングを行った上で、3つの重点化アクションを選定しています。

今後、有識者からのご意見等を踏まえ、特に、産業としての持続可能性や高付加価値化、イノベーション、人材育成等の要素を考慮しつつ、戦略展開を行ってまいります。

2. 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」  
重点化アクション – 3つのチャレンジ –

# 「沖縄観光ステップアップ戦略2017」 重点化アクション – 3つのチャレンジャー

## 重点化アクション と選定背景

## 2017年度の アクションの ポイント

## 沖縄の観光振興 へ期待する効果

### ① 新「大航海時代」の創出に向けた受入環境整備

#### 【選定背景】

- ・ 2016年のクルーズ船寄港数が対前年77%増（387回）、都道府県別で全国1位（外航寄港数は全国の1/4が沖縄に集中）。
- ・ 沖縄県は「沖縄県観光振興基本計画」における目標値を上方修正（クルーズ客25万人→200万人）（H29.3）。
- ・ 「官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾」（国交省）に本部港、平良港が選定（全国6港）（H29.1）され、クルーズ船観光客の誘致に向けた国の取り組みも一層強化の方向。
- ・ これらクルーズ船観光客の満足度を高めリピートに繋げ、観光客数・観光収入の底上げに取り組む。

クルーズ船の  
新たな  
受入体制の  
構築

- ・ 観光客の満足度及び安全性の向上
- ・ 着地型観光の実現

# 重点化アクション と選定背景

2017年度の  
アクションの  
ポイント

沖縄の観光振興  
へ期待する効果

## ② スポーツ・ヘルスケアを軸とした沖縄観光の新展開

### 【選定背景】

- ・「日本再興戦略2016」にて、スポーツ市場規模を5.5兆円（2015）→15兆円（2025）へ拡大する目標設定。
- ・スポーツビックイベント開催（ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会）によりスポーツ産業への注目度が高揚。
- ・沖縄県でのスポーツコンベンションの開催件数は近年増加、沖縄県発祥の空手が2020年東京オリンピックの正式種目に選定（H28.8）。
- ・温暖な気候などの沖縄のポテンシャルを活かし、トップアスリートだけではなく、一般の方のリハビリや健康増進を含めたスポーツ・ヘルスケア産業の高付加価値化に取り組む。

- ・「沖縄スポーツ産業クラスター推進協議会」の組成
- ・県内スポーツ関連事業者のネットワーク強化による新ビジネスやサービスの創出促進

- ・スポーツ・ヘルスケアツーリズムの拡大
  - －沖縄の強みを生かした新たなインバウンドの開拓
  - －滞在日数の長期化
  - －目的型観光における選択肢の多様化

## ③ 新たな体験型観光の開発・回遊性向上に向けた交通モードの多様化

### 【選定背景】

- ・「やんばる国立公園」の指定（H28.9）や世界遺産登録に向けた動きなど、「海洋博記念公園基本計画」の改訂（H29.3）、本部港及び平良港の「官民連携による国際クルーズ拠点形成する港湾」選定（H29.1）等、本島北部地域や離島の観光に係る取組が活発化、今まさに本島北部や離島観光の振興を戦略的に進めるべきタイミング。
- ・「沖縄の道路渋滞対策と新たな交通環境を考える有識者懇談会」の中間とりまとめ（H28.11）において、渋滞対策は国際観光競争力の増進にも資するものと位置づけ。
- ・渋滞緩和や自動運転も活用した交通環境の改善、各地域や関係機関による新たな体験型観光の開発の取組を踏まえた本島北部地域や離島への交通モードの多様化（高速船、小型飛行機等）を実現することにより、沖縄観光の魅力を高め、観光客数・観光収入の底上げに取り組む。

- ・自動運転の実証実験の実施
- ・その他の交通モードにおける実証実験等の実施に向けた検討

- ・豊かな観光資源を持つ本島北部地域や離島へのアクセス向上
- ・移動手段自体の観光要素化
- ・観光客が利用しやすい交通環境の創出

# クルーズ船観光客に対する受入体制整備(宮古島を先行事例とした二次交通の受入環境整備)

- 宮古島においては、クルーズ船の大型化や寄港数の増加、また、空路からの入域観光客も増加していることにより、二次交通としてのバス・タクシーが不足気味。
- 2016年は、3,000人を超える規模の乗客にはバス、タクシー不足が生じ、県・市が無料バスを運行する措置を講じたが、タクシー不足の完全な解消には至らなかった(平成28年8月24日の二隻同時入港)。
- 2017年は船が更に大型化することも鑑み、早急な対応が必要。

## 平良港へのクルーズ寄港状況

	2016(実績)	2017(予定)
ヴァーゴ	20	1
アクエリアス	28	30
リブラ	32	0
ゲンティンドリーム	0	27
ゴールデンプリンセス	3	0
サファイヤプリンセス	0	16
チャイニーズタイشان	0	37
その他	3	28
合計	86	139

※H29. 5. 9時点(宮古島市資料より)

## 寄港する主なクルーズ

	スタークルーズ社系			カーニバル社系		
	ヴァーゴ (約2,000人)	ゲンティンドリーム (約3,300人)	リブラ(約1,000人)	アクエリアス (約1,500人)	ゴールデンプリンセス (約2,600人)	サファイヤプリンセス (約2,600人)
中国	広州	広州・香港	厦門			
台湾				基隆	基隆	基隆



2016.8 二隻同時入港の際のタクシー待ちの行列  
(宮古島島内の貸切バス車両は59台、タクシー車両は185台(H28.228時点))

**観光客の満足度向上や地元の観光増加のため、クルーズ船社と地域の観光関連事業者との連携を図る協議体を新たに設置し、二次交通対策等を検討する。**

# スポーツ産業クラスターの形成

政府の動き

- 「日本再興戦略2016」における名目GDP600兆円に向けた「官民戦略プロジェクト10」にて、スポーツの成長産業化を提案
- 具体的目標として、KPI（数値目標）を  
スポーツ市場規模 5.5兆円（2015）→**15兆円（2025）**  
スポーツ実施率の向上 40.4%（2015）→**65%（2021）**
- 具体的施策として、①スタジアム・アリーナ改革、②スポーツコンテンツホルダーの経営力強化、新ビジネス創出の推進、③スポーツ分野の産業競争力強化

沖縄の現状

- ①プロ・アマスポーツキャンプ（合宿）のメッカ
- ②県出身トップアスリート（宮里藍選手等）の活躍
- ③プロスポーツクラブの誕生  
（琉球ゴールデンキングス、FC琉球、沖縄SV、琉球コラソン、ヴィクサーレ沖縄FCナビータ等）
- ④トップアスリート・トレーナーの移住、スポーツベンチャー等の胎動
- ⑤スポーツ関連事業者の多さ



## 沖縄のポテンシャル

- ①温暖な気候
- ②海洋性リゾート地としてのブランド
- ③成長著しいアジアとの近接性（東アジアの中心）
- ④比較的ハイスペックな施設の存在
- ⑤多様な地域資源（海洋亜熱帯性生物資源の宝庫）

東アジアにおけるスポーツビッグイベント開催による注目度の高まり

⇒ヒト、カネ、モノ、チエを沖縄に呼び込むチャンス到来！

- 2018 平昌冬季オリンピック・パラリンピック(韓)
- 2019 ラグビーワールドカップ(日)
- 2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会(日)
- 2021 ワールドマスターズゲームズ(日)
- 2022 北京冬季オリンピック・パラリンピック(中)

## 沖縄スポーツ産業クラスターの形成 ～クラスター手法によるスポーツ産業振興～

ポテンシャル・国内外のスポーツへの関心の高まりを受け、下記の戦略でスポーツ産業クラスターの形成を目指す

戦略1：県内スポーツ関連事業者、産学金官のネットワーク化によるスポーツビジネス、ヘルスケアビジネスのイノベーション創出促進

- 産学金官協議会の組成
- シェルパ会合（異業種交流会）
- 地域経済牽引企業への支援
- スマートベニユーの創出
- オープンイノベーションを誘発するイベント（スポーツエキスポ）の開催

戦略2：国内外から沖縄への誘引力を高める核づくり

- スポーツサイエンスの拠点
- スポーツ経営人材育成

※スマート・ベニユーとは

これからの街づくり及びコンパクトシティの中核施設として、「周辺のエリアマネジメントを含む複合的な機能を組み合わせたサステナブルな交流施設を表す造語」（日本政策投資銀行）

# 観光交通モードの多様化

## 交通環境の改善、那覇から本島北部地域や離島への回遊性向上に向けた交通モードの多様化

### 那覇～本部の所要時間

現在:乗合バスで約2時間

例えば**高速船**による移動機会の提供により**約1時間20分**※

+ **船舶移動**という新たな観光要素の創出

※過去運航していた高速船の実績



例えば**小型飛行機**による移動機会の提供による**短時間での移動**+ **航空機移動**という新たな観光要素の創出



小型機の離着陸が可能な施設

- 空港
- 場外離着陸場
- 概ね静穏な水域  
(利用に当たって具体的な調整は別途必要)



**自動運転技術**を活用した**バス**の導入により、**観光客の増大**に対応した**持続可能なバスネットワーク**を構築し、観光客が利用しやすい交通環境を創出



2017年度の目標:

- ・自動運転の実証実験の実施
- ・その他の交通モードにおける実証実験等の実施に向けた検討